

マティス 自由なフォルム

国立新美術館(六本木) 24.02.14~05.27

20世紀最大の巨匠の一人「アンリ・マティス」(1869~1954)は、後半生を過ごした南仏・ニースで様々な色が塗られた紙をはさみで切り取る技法「切り紙絵」を精力的に制作し、新たな芸術表現を切り拓いたことで知られている。

本展は、切り紙絵の重要なコレクションを誇る「ニース市マティス美術館」の全面協力を得て「マティスの切り紙絵」に焦点を当てた日本初の展覧会の開催で、加えて画伯の初期の作品から画業を振り返る充実した内容であり、「マティス」の画期的で親しみやすい作品を存分に味わえることができる。

アンリ・マティス 《花と果実》 1952~53年 410 x 870cm の巨大サイズ



本展のために修復を経て初来日する目玉の一つで、ニース・マティス美術館メインホールで来場者を迎えている作品である。

この切り紙作品は、5枚のキャンヴァスが繋がって構成され、壁面の一面を覆う広大な画面はあたかもタペストリーのようなものである。



《ブルー・ヌードⅣ》

1952年 103 x 74cm



《蜜蜂》

1948年 101 x 240cm